

< 鶴ヶ島市 >

読者の投書から明らかとなった・・・

鶴ヶ島市議による「飲酒」暴力事件!!!

昨年から雪崩を打つように支持率を凋落させている安倍政権が象徴するように、国民の政治不信は常識のレベルにさえ達している。

問題は国政に留まらない。たとえば、地方自治体の市議会是有権者と政治家の距離が近いぶん、ある意味では国政政治家よりも市議会議員のほうが公職者たる職責の厳しい自覚と…倫理…道徳観をもって、市民社会に奉仕する姿勢と言動が求められるといってもよい。

それは国政がいい加減でよいという意味ではなく、有権者に対する責任がより直接的であるという点で、地方議員は国会議員よりも本質的な政治手腕が問われるということだ。国会は原則的に政党政治だから、無能な政治家でも数の論理に相乗りして議員バッジをつけていられる。

しかし、市議会などの地方議員は所属する政党があるにせよ、政治家個人としての市民社会に対する使命感と義務、そして政治力がより強く問われるものである。国会議員が演説で謳う「国民のため」の「国民」とは1億2千万人以上の日本国民のことである。

政治家が「国民のために、この法案を通過させます」などと言ったところで、多種多様の立場や職業にある国民1億2千万人の利害が一致することなどあり得ないのだから、実は国政の政治家は常にかなり適当なことを言っているのである。もちろん、政治家たちは自分たちの責任を曖昧にしておくために、敢えて漠然とした「国民」という言葉を使っているのだ。

一方、市議会議員はそうはいかない。

仮に「鶴ヶ島市」であれば、市議会は7万人の鶴ヶ島市民に対して直接的な重責を負うのだ。地域性として常に具体的な政治手腕と成果が問われるし、市民の代理人としての人格・品性・コンプライアンスも厳しく求められるのだ。

さて、前文が長くなったが、鶴ヶ島市議会議員の醜態を告発する匿名の読者の投書が本紙に寄せられたので、ここにその要旨を紹介したい。

投書によれば「**事件**」は平成 29 年 2 月中旬の午後 10 時頃に起きた。元・鶴ヶ島市議であった大曾根英明氏の自宅で、酒を飲んでいた鶴ヶ島市の内野嘉広市議と出雲敏太郎市議が、両者とも酔って口論となった挙句に内野市議が出雲市議に暴力を振るい、出雲市議が全治 2 週間もの怪我を負ったという事件である。

事件当時、被害者となった出雲市議の通報によってパトカー数台が到着し、大曾根元市議の自宅周辺は警察官たちで物々しい光景になったという。

本件を本紙に伝えた匿名読者は次の通り訴えている。

このような暴力事件を起こした議員が、鶴ヶ島市議会においてなんら追及されず、引責処分もされず、鶴ヶ島市民に一切知らされることさえなく、議会関係者によって暗黙裏にこの暴力事件をなかつたことにしている。

このような暴力事件を起こした内野議員が、そのまま改選の選挙に向かうことは、果たして鶴ヶ島市民にとって許されるのでしょうか？

貴紙におかれましては、是非とも本件を調査の上、糾弾して戴きたいと願っています。

本件投書の内容が事実であれば、由々しき事態である。

議会という民主主義政治の代理権を有権者から委託された市議会議員が、仮にそこが公務の場ではないにせよ大曾根英明元市議宅で酒に酔って口論の末に暴行を働いていたとなれば、内野市議は民主主義政治を真っ向から否定する暴力肯定の反社会的な人間に等しいということになる。

これより本紙は、どのような背景事情で当該暴力事件が議会筋で揉み消され、市民に伏せられたのか…市議による暴力行為の実態を水面下で処置した政治工作の実情を「**克明に調査**」し、心ある鶴ヶ島市民の告発に応える所存である。